



ハットクラブだより

2022年6月 No.52

2022年度[令和4年度] 総会を開催

2022年度（令和4年度）年次総会が6月5日（日）開催されました。都合により例年のライフプラザではなく、グリーンホール大会議室での開催になりました。2019年6月以来となります。

ウイズコロナに移行しつつある中ですが、後半の意見交換会とともにアットホームな会となりました。

例年ご臨席を賜っている箕面市市長、国際交流協会理事長他の来賓のご挨拶は次年度に託す形での開催です。

2022年度（令和4年度）総会を終えて

箕面市ハット市友好クラブ会長 阿部一郎

去る6月5日（日）に本クラブの総会を無事終えることができました。過去二回の総会は、新型コロナウイルスの感染拡大のため、文書による表決を会員の皆さんにお願いするものでしたので、対面による総会の開催は3年ぶりとなりました。ご参加いただいた22名の会員の皆さんと直接お会いして顔を見ながら交流することがこんなに素晴らしいものであることを改めて実感いたしました。

振り返れば、本クラブの2020年度からの事業は、ほとんど中止となりました。かろうじて、運営委員会だけは、オンラインでの開催も含めて継続することができましたが、新型コロナウイルスのパンデミックが今後も続いていくことが予想される中で、私たちのクラブが存亡の危機に直面していることに変わりありません。また、今年の2月から始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻は長期化の様相を帯びています。第二次世界大戦の悲惨な惨禍を繰り返すことがないように、特に敵国として戦った国同士で始まった姉妹都市交流は、今こそ世界平和のメッセージを出すときを迎えています。

姉妹都市交流そのものの存在意義が問われていると私は痛感しています。

本年度は、そのような社会情勢の中で、「英会話サロン」や「ALT・CIRの歓迎会」、「多民族フェスティバルへの参加」、「キウイパーティ」等の事業は、感染予防対策をしっかりと講じるとともに、さらに様々な工夫をした上で開催をめざしていきたいと考えております。また、本クラブの活動状況やハット市との交流を会員の皆さんや関心のある市民の皆さんにお伝えする「会報」は、コロナ禍においてその重要性はますます高まっています。分かりやすい紙面づくりを心がけて会員の皆さんのニーズに応えてまいります。そして、昨年度は中止を余儀なくされた「第二回箕面市姉妹都市交流フォーラム」も、箕面メキシコ友の会と共催して再度開催する予定です。内容としては、姉妹都市交流のルーツである平和社会の実現を訴えつつ、今後の姉妹都市交流のあり方を探ってまいります。

これら本年度の事業計画と予算が、昨年度の事業報告と決算に加えて、この度の総会において可決されましたことを、この場をお借りしてご報告いたします。

最後になりましたが、少しずつですが、若い世代の会員も増えてきております。よく言われる世代交代ではなく、全世代参加参画型の「ハットクラブ」を創ってまいりたいと思いますので、今後も会員の皆さんのご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



総会終了後には、意見交換会をしました。

久しぶりの再会ということもあり、皆さんハットクラブとの関わりを語り、思い出話に花が咲きました。

若い会員が増えて、姉妹都市交流が次世代に引き継がれることを期待します。

クラブの活動は2020年3月以来、新型コロナの蔓延により中止を余儀なくされてきました。例年ですとここにみなさんが活動する笑顔を紹介する紙面のはずです。それもかなわない中、イベント・活動に長年世話係をしていただいていた皆さんに、思いを寄せていただきました。

お花見

窪 敏夫

クラブでは毎年4月に万博公園でお花見を開いて来ました。お花見には英会話サロンの講師も参加して、桜の下でお弁当を広げながら楽しい時間を過ごして来ましたが、コロナが広がってから開催できなくなり、もう3年になります。

海外では公共の場でお酒を飲めない所もあるので、桜の下でお酒や食事を楽しむ風景は外国人にはまるでお祭りが始まったようで「アニメかゲームの世界に来たようだ・・・」と言う話を聞いたことがあります。ある日突然あちこちでアウトドアパーティーが始まるわけなので、驚くのも無理はありませんが、2018年に桜を見に日本に訪れた外国人観光客は500万人に上ったそうです。

話は変わりますが、ニュージーランドの夏に咲く花に「ジャカラダ」という花があります。樹木に咲く花で和名を「紫雲木」と言います。遠くから見ると桜にそっ

くりですが、違うのは花の色が青だと言う事で、実際に見たことがある人の話では「真っ青な桜が咲いている！」とビックリするそうです。

ニュージーランドではオークランドなど国の北側を中心に街路樹や公園の木として植えられ、12月から1月にかけてよく見かけることができると書いてありました。こちらでも姉妹都市の記念樹として植えられないかと運営委員の間で話題になったこともありますが、元々熱帯の植物なので気候が合わず難しいようです。いつか「青い桜」の下でお花見をしてみたいものです。



NZワイン試飲会

加藤 俊明

この集まりは、2003年以来、曲折をへて第5回の2009年にほぼ今の形になったといわれています。

しかし、新型コロナのために、2020年以降の開催は自粛してきました。今年も残念なことに変種による感染もあり、飲酒を伴う集まりは今後も難しいようです。

友好クラブのイベントのひとつ、それは年ごとの楽しみ。ニュージーランドに住む友人への思いを重ねて愛でる

NZワインであれば、参加者同士の眼差しを交わすことで親しみも湧き上がり、喜びも新たにです。おなじみのソムリエさんの吟味された各種ワインの奏でるハーモニーと、手製のペーストとバゲットの香ばしさも味わいながら「NZワイ



ンの集い」のささやかな楽しいひとときを共有します。

思いをたくましくすれば、大きな草原の彼方に群れる羊、変化に富んだ景色、心優しい友の眼差し、それは出会いの旅となり、そして多様性とマオリの文化を共有する国の施策などをまぶたに浮かべる昼下がりの宴になります。

もしも今後もこの集いがかなわないのであれば、私たちは日々これに馳せる思いを持続させ、新たな発見を持続させましょう。やがてくるべき集いに備えて。

PR誌のNZワインの特集に目をやり、ワインの随筆を手にとってみる。

スーパーマーケットのワインコーナー、NZ国旗の・・・ピノ・ノワール・・・先の試飲会にあった、きりっとした味わい。・・・少し高い。mmm 今年も集いがいないだって！・・・よし、今日はこれ買っていこう。

より意義のある「多民族フェスティバル」に向けて

片芝 賢二

国際交流協会主催の市民、外国人居住者参加の一大イベントである多民族フェスティバルは、参加諸団体が、それぞれに工夫を凝らして、年々、内容も充実し盛大になって来た中、ここ2年の休止は残念で、今年こそ再開を期待するところです。

ハットクラブは、例年、NZワインバーを出店し、多くの方々に交流を楽しんでいただく憩いと懇談の場を提供しています。日頃のクラブの活動で、「よりNZらしさを」、「よりハット市との交流の機会を」が課題となっています。前回は、みのおFMの協力を得て、ハット市と電話回線で結び、両市民の会話を場内放送しました。さらに直接交流の臨場感を深めるため、大きなスクリーンを設置して、画像で結ぶアイデアを考えています。色々な出し物を実況中継したり、世界の子供たちの遊びの場では、両市の子供たちが一緒にゲームを楽しめます。

現地では、毎年、日本大使館も協力して日本の文化芸術

を紹介する「Japan Day」を開催しています。たこ焼きの屋台も出て、より日本的な雰囲気です。開催時期を合わせて、会場同士をライブ中継して、紹介し合い、NZワインを片手に語り合うことが出来れば、より楽しく、同時に、より多くの交流目的が達せられると思います。2～3時間の時差しかない両国間でこそ可能な企画です。地政学的にも、昨今、より近さを増して来ている両国、このような時こそ、市民レベルの会話を通じて、より深くお互いを理解し合うべきと思っています。姉妹都市の理念に叶った世界の平和に役立つ活動であると信じております。



賑わうNZワインバー

キウイパーティー

窪 敏夫



運営委員になって直ぐに任されたのが、年末行事のキウイパーティーでした。その時は中華レストランでのパーティーでしたが、それを皮切りに5年ばかり幹事をやっています。

その間に場所は3回変わり、時間帯は昼から夜へ変わりましたが、毎回多くの会員の方々に参加頂いています。

参加者は毎回40名前後で、日頃お世話になっている英会話サロンの外国人講師や市役所の国際交流員(CIR)のメンバーにも参加頂いて、国際色豊かなパーティーになります。

毎年大阪大学交響楽団にお願いして弦楽四重奏によるクリスマス音楽の演奏があり、その後はマオリの歌あり、飛び入りの歌ありでアツと言う間の2時間です。

ここ何年かはCIRの女性陣に和服姿で登場して貰っています。運営委員の方が大忙しでの着付けですが、ビシッと決まった和服姿に拍手喝采です。会場の音羽山荘の和風の玄関口では、観光客から記念撮影を求められたりしていました。前任の二人の方々には、箕面を離れる時に写真を引き伸ばして額に入れて記念品と共に贈呈しました。いい思い出になっ

てくれればと思います。

今年はニュージーランドからまた新しい国際交流員が来日されましたので、この機会に今年こそキウイパーティーを開催したいと思っています。その時は3年分をギュッと押し込んだ、楽しいパーティーにしたいと思っています。それまでにはコロナが収束してくれることを祈るばかりです。



英会話サロン

川島 一彦



十年以上前、私は会社を定年で退職し「サンデー毎日」の生活になりました。そのころ市の広報紙を見ていて、ふと目にとまったのが「英会話サロン」の案内でした。いちど冷やかして覗いてみようと言う気持ちで参加したのが、ハットクラブとの出会いでした。毎月サロンに通っているうちに、第三日曜日がたのしみになってきました。そのうち幹事のかたがやめられたのを機に私が担当することになりました。以来7年ほどサロンを担当し、3~4年前にいまの幹事のかたがたに替わっていただきました。



担当していちばん気苦労がたえなかつたのが外国人講師の確保です。基本的にひとテーブルにネイティブ・スピーカーひとりずつ、そして出来れば4~5テーブル欲しいところですが、時には先生が6人という事もありましたが、ほとんどの場合、平均すると4人以下というのが現実です。

進め方もはじめのうちは各テーブルでよもやま話をしておりましたが、毎回トピックを決めてはどうかと言う事になりました。時間も前半、後半にわけ、トピックのまとめとして各テーブルで話し合った内容を発表しておりました。この発表を先生方をお願いしたほうが「ヒヤリング」の練習になるという事で今のような形になりました。

我々の姉妹都市は純英語圏のニュージーランドです。相互の交流には言葉は大事です。大いに「英会話サロン」を活用していただいて国際語の英語力を高めようではありませんか。

ハット側と相談して一年分のトピックを表にしました。英語だけでなく、最後の15分は日本語でと言うことで、ハット側で日本語のできる人と話した事もあります。

参加者は多い時は双方とも10名前後でやりとりしましたが、2020年初めからコロナ禍に見舞われ徐々に参加者が減ってきました。この辺から従来のスカイプよりズームという新しいシステムに移行していき

ました。今現在、諸般の事情で中断していますが早く再開したいものです。

今現在、諸般の事情で中断していますが早く再開したいものです。



オンライン交流

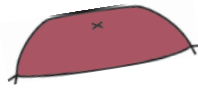
川島 一彦



数十年まえ「未来社会ではテレビ電話が出現する」と予言した人がいました。それから数十年、今世紀にはいりコンピュータ化が進む中、ついにそれがスカイプという形で可能になりました。

2012年にハット市を訪問したとき「我々もスカイプで交流しませんか」と持ち掛けました。幸いにも、両市長はほぼ即決のかたちで賛同して下さいました。これを思いついた大きな理由は、NZとの時間差です。我々両国は緯度では随分はなれていますが、経度ではそれほど差がないという事です。つまり時差が3-4時間なので、明るい昼の時間帯にリアルタイムで交流することが出来ます。

このようにして翌2013年から、ハット市民の皆さんとスカイプでの交流が始まりました。箕面側の我々はMAFGAの部屋に集まり、なれない英語でしたが、手探り状態でやりとりを始めました。初めは自己紹介程度でしたが、そのうち毎回テーマをきめてはどうかと言う案がでました。



英語落語のすすめ

小辻 民子

2018年には英語落語の会「ハット英語落語の会」を開催いただいて誠にありがとうございました。私自身、英会話もろくすっぽ満足に出来ないのに大胆不敵にも高座に上がらせていただいたことに感謝しております。何事も経験という姿勢で生きて参りました。困ったことに恥を知りません。(笑)

日本の伝統芸能である落語を英語で表現した最初の落語家は桂枝雀師匠ですね。

以降プロ、アマを問わず多くのパフォーマーが排出されました。全国的に広がり各地で英語落語会を開催されたり、英語教育の一環として、学校で「出前寄席」なども行われています。

関西のアマチュアグループでは、こねこさん主宰の「おふく寄席」、笑人さん主宰の「にぎわい亭」など他にもたくさんの英語落語グループがあります。定期的に寄席を開催し、お稽古の成果を発表されています。コロナ前には毎年、海外の大学などでも出前寄席を開催しておられました。

私が英語落語に興味を持ったきっかけは、英会話力を高める教材として最適だと思ったからです。甘かった！そんな簡単なものではありません。落語独特の話芸があり、そ

の話芸を踏まえつつ、ネイティブにもわかるように翻訳し表現する。ああ難しい！といいながらも興味が尽きることはありません。

皆さん、おうち時間が多くなりましたね。最近の国際情勢を憂い難しい顔をしてばかりじゃ身が持ちません。事は最悪の状況に陥りそうでもです。

そこで英語落語のおすすめです。インターネットを繋げる環境があれば、ひとりでお稽古できるので、何も要りません。YouTubeで「英語落語」と検索すれば、お気に入りの落語パフォーマーが見つかるでしょう。まずは短い噺を真似してみてください。英会話が堪能な方なら日本語の SCRIPT をご自分で翻訳してみたいかがでしょうか？ 苦しいけど楽しくなってきましたね。お稽古とはそういうものです。一つの噺が話せるようになったら、誰かに話してみてください。ネイティブの方ならさらに良し、これが国際交流ですね。日本の「話芸」落語の魅力をお伝えできるかもしれません。もし興味があまりなら、一度チャレンジしてみてくださいいかがですか？

下のQRコードを読み取ると動画で英語落語が楽しめます。



桂枝雀さん
Zoo 動物園



英語落語チャンネル

菊澤さんは、英会話サロンのみならず、私達のハットクラブの活動にご協力を頂いているLaurieさんの奥さまです。このたび、私達が日頃興味をいだいている「ことば」に関する展示を企画されているとのことで、その内容の紹介をお願いしました。開催の日を楽しみにしています。

言語展示に行ってみよう！ 菊澤 律子

みなさんは「言語」というと何を思い浮かべられるでしょうか。苦戦した英語の授業？ それとも、大学でとった第二外国語の単位？

私の勤務先、国立民族学博物館（みんぱく）では、この秋『Homō loquēns「しゃべるヒト」～ことばの不思議を科学する』が開催されます。一般に連想されがちな外国語学習からちょっと離れて、異なる視点からコトバを見てもらうきっかけづくりのための展示です。

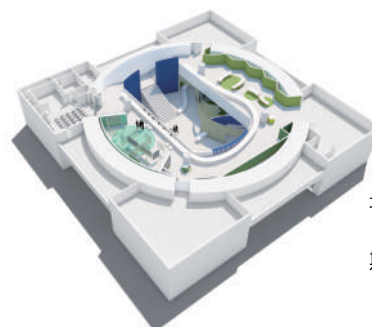
一階の第一部は、コトバのメカニズム。「世界中で言語が同じだったらよかったのに」と嘆かず、そもそも同じ言語を話すとなぜ伝わるのか、考えてみませんか？ 慣れない外国語の発音は難しいし、聞き取れない。でも人間は、細かい発音をどうやって区別しわけているの？ そして、そんなコトバを、私達はどうやって身につけるのでしょうか？

展示場の二階は真ん中に吹き抜けがある変形ドーナツ型になっており「多様性」について考えます。コトバそのもの多様性——地域や社会による違いがあったり、言語ごとに違う表現が違っていること——については、みなさんす

でにおなじみかと思いますが、それでは、コトバと人との関係の多様性、そしてコトバの研究の多様性についてはいかがでしょう？ この展示を準備する中で新しく生まれた「言語ヒストリー」という考え方を、ご自身にもあてはめて考えてみませんか？ そして、言語に関する研究は文学部だけではなく、きつとその多様性にびっくりしていただけることと思います。

解説言語は、日本語、英語、日本手話の3言語。もちろん、車椅子でもすべての展示をご覧いただけるゆったりとしたスペースは確保済み。聴覚障害者、視覚障害者を対象としたユニバーサル対応もあります。

コトバの新しい見方。みなさんにもぜひ、ご覧いただき、感想などをお聞かせいただくことができれば嬉しいです！



場所：国立民族学博物館
特別展示場

期間：2022年9月1日（木曜日）
～11月23日（水曜日・祝）

クラブのイベントが対面で行えないなか、NZに関連のトピックとして寄稿をお願いしました。先の記事の「お花見」のなかに、ジャカラダのことが書かれています。青い桜？だそうです。ところ変われば、です。

マヌカ(Manuka)

六角 みよ子

フトモモ科のマヌカ(マオリ語)は、NZで最も知名度の高い固有種植物です。日本ではギョリュウバイと呼ばれ、NZではTea Treeとも呼ばれています。2020年5月にハットクラブが翻訳出版の“Lower Hutt The First Garden City”の中にも、マヌカの植樹のことが書かれています。私は2018年11月末~12月にNZを訪問の際、北島のロトルアでも南島のクイーンズタウンからミルフォードサウンドまでの行程の道そばでも延々とマヌカの花が咲いているのを見ました。NZでは、マヌカはあらゆる所で自生する植物のようです。

野生植物の栽培や観察を趣味とする筆者は、マヌカを栽培してみたい、と兼々思っていました。折しも昨年6月、NZ通のハットクラブ会員の方からマヌカの苗をいただきました。NZとは季節が真逆であるのに箕面の地のマヌカも、何故か12月頃から開花が始まり、蕾もたくさんできてきました。蕾は冬の寒さに耐え、5月時点では写真のごとく満開となりました。

マヌカと言えばマヌカハニーを連想されるでしょう。しかし、マヌカハニー用のマヌカの木は、亜種を含む多種類の中で「インカナム」という種類だけで、北島にしか自生していないそうです。この種のマヌカの花からミツバチが蜜を集めてできるのが、マヌカハニーだそうです。メチルグリオキサール(以後MGOとする)の含有比率の高いマヌカハニーほど購入価格も高くなっています。

長崎大学や兵庫県立大学、またオーストラリアやドイツの大学の各研究機関でも、MGOの高い抗菌活性や抗

ウイルス活性のエビデンスを報告しているようです。

娘からのミッションで「MGO800以上のマヌカハニーを買うように」とのことから、現地NZで見歩きました。値段の高さに驚きました。しかし「インフルエンザ予防に効果抜群」だと聞いたので、孫たちのために奮発しました。その効果かどうかわかりませんがインフルエンザにかからず無事に功を奏しました。

またNZでは、Tea Treeの葉っぱから作るマヌカティーが販売されています。くせが無い味で、ハーブティー感覚で飲めます。2019年2月に催行の「NZをもっと知ろう講演会」でNZ産マヌカティーを飲んでいただいたのを覚えておられるでしょうか？

もう少し木が大きくなったら、自家産マヌカティーを作ってみよう、と楽しみにしています。



ニュージーランドの花



ポフツカワ(Pohutukawa)

NZの街角でよく見られる木です。クリスマスの木と言われ、冬に個性的な赤い花を枝いっぱいにつけます。

フェイジョア(Feijoa)

花がポフツカワに似ています。もともと南米が原産だそうです。NZでよく栽培されているそうです。日本でも秋の収穫時期にその実を道の駅で見かけることがあります。

洋梨のような甘酸っぱい香りがこちよく、果実酒にもおすすめです。



From Windy Wellington to Muggy Minoh

Trees Neal

Kia ora (Hello)! My name is Trées ('trays'/トレース). I'm following in Zea and Bella's footsteps as the new New Zealander at the Minoh City Office through the JET Programme.

I've previously been on the JET Programme for two years in Tokyo as an English teacher. Although I loved Tokyo, I missed the ~grass-roots community interaction~ vision of the typical JET experience. After a few years back home in Wellington, I wanted another shot at life in Japan!

At first, I didn't know I was going to Minoh, but am very grateful to be placed here. There is so much support for foreigners, making tasks like going to the doctor less intimidating. It's close to Osaka city but has lots of community spirit and beauty.

Until now, I didn't feel like I could have meaningful connections when talking to people in Japanese. This time, because my language skills have improved, and maybe because Kansai people are more (stereotypically) carefree, I feel like I can truly connect with people here.

Moving during the pandemic was a scary decision, but I'm glad I did. I'm also very lucky to be able to, so will make the most of it. Since 2020, New Zealand had multiple lockdowns while also having periods of near-normal life. It was hard to tell what post-2020 Japan was like without being here, and I'm sure it feels the same for you about New Zealand. However, even though I'm far from friends and family, I think the lockdown experience has made it easier to deal with that separation.

Anyway, that's my little spiel! I'd love to try out many activities in Minoh so please reach out! If you'd like to hear more about New Zealand, I write bi-monthly blogs in Japanese on the Minoh City website.

Ngā mihi! (Thank you!)

※最後の"that's my little spielの"spiel"は珍しい言葉ですが、"大げさな演説(客寄せなどの流れるようにしゃべる)"という意味で、ちょっとユーモア的な書き方になります。

ブログURL <https://blog.goo.ne.jp/minohblog/e/55454e7277483b0ed70709f5ea0dd333>



写真好きなJETの知り合いによる撮影

(インスタグラムアカウント @kenchans.lens)

昨年よりCIRとして箕面市役所勤務。市のホームページでもブログを展開されています。楽しい滞在になりますように。心より歓迎いたします。

The Hard Work and Preparation were Worth It

Julia Carman

In the Summer of 2021, my friends and I had started going on various walks around the Wellington-Wairarapa region. The Wairarapa is about a one-hour drive away from Lower Hutt, connected by a mountain road through the Tararua Ranges north of Upper Hutt.

The destination we decided on for this trip was a popular destination called 'The Pinnacles' near the coast, east of Wellington. This location was made famous by its appearance in the Lord of the Rings films. It has many interesting rock formations. The track starts from a campsite and follows the riverbed, the official track was washed out in 2020 and hasn't been repaired so you're mostly following yellow tags tied haphazardly along where you're meant to go. The walk consists of multiple stream crossings and walking across loose river stones on a steep slope.

We made several mistakes for this walk. One, we started at midday. In the middle of summer, on the dry riverbed, there was no escaping the burning New Zealand sun. Two, we did not prepare. We were unfit and didn't have enough water. Three, due to the state of the track, we got lost several times. We had underestimated what was required and eventually we admitted defeat and turned back declaring we would return for revenge.

At Easter Weekend of this year, we returned! Armed with multiple water bottles and cooler weather, we were soon hopping over streams and jumping from stone to stone. Eventually we reached the spot where last year we had given up. We cheered! (Much to the amusement to others on the track.) We still had the energy to reach our destination!

The awe-inspiring landscape matched the feeling we had from finishing our goal which we had failed to accomplish the previous year. The hard work and preparation were worth it.



At Easter Weekend of this year, we returned!

Waking trip in the Wairarapa

<https://goo.gl/maps/tKwnNzsCv4ZgDjZu9>

写真下方に小さく写っています：Juliaさんとお友達 ALTとして箕面に来られたおりの寄稿(会報No.46)に続き、今回は郷里からのお便りです。おげんきそうでなによりです。英会話サロンほか、友好クラブの多くの活動にご協力をいただきました。

この2年間強の間、運営委員による月例の運営委員会（多くは ZOOM で開催）以外は目立った行事を行うことはできませんでした。しかし、ようやくマスク着用の対策も緩和されました。あちらこちらの小学校運動会開催などの便りもあります。

3年ぶりに対面での総会（恒例の茶話会は茶菓なしの意見交換会）が開催できました。6月の英会話サロンも再開、不十分ながらも継続開催ができそうな気配です。この自然な活動を保持したいものです。皆さまのご参加を楽しみにしています。企画運営にもお力をお寄せください。

行事予定

行 事	月	摘 要
2022年度総会・意見交換会	6月	
ALT、CIR 歓迎会	10月	
多民族フェスティバル (NZワイン販売)	11月	一般市民を対象
第2回箕面市姉妹都市交流フォーラム	11月	メキシコ友の会と共同開催予定
キウイパーティー	12月	

おことわり：4月のお花見、10月の NZワイン 試飲会は飲酒が伴うため中止としました。コロナ等の状況により中止・延期となる場合があります。

定例活動

活 動	摘 要
英会話サロン	月例、年10回（コロナの状況により中止あり）
運営委員会	月例、年11回
会報	年2回発行。Web上で2月と7月を予定
公報	ホームページ等

2022年度（令和4年度）
役員紹介（敬称略）

会 長	阿部 一郎
副会長	六角 みよ子
副会長	窪 敏夫
副会長	川島 一彦
会 計	東條 暁之
書 記（新）	加藤 俊明
委 員	東 三貴子
委 員	平井 美矢子
委 員	山根 ひとみ
委 員（新）	野村 太持
委 員（新）	森 遼太
監 事	片芝 賢二
顧 問	小枝 正幸
顧 問	佐藤 徹

編集後記



ゲンジボタルが飛び交う季節となりました。コロナ禍のなか、皆さんとお会いする機会がないまま時ばかりが過ぎていきます。

そこで、今回のハットクラブだよりは、これまで当クラブが行ってきた様々なイベントをご紹介して楽しんでいただこうと考えました。

快くご寄稿いただいた皆さまには心より感謝申し上げます。

これからも楽しい会報誌となるよう、工夫していきたいと思っております。

発行日：2022年6月
編集担当：加藤俊明、山根ひとみ

箕面市ハット市友好クラブHP
<https://minoh-hutt.com/>

